



～予防接種を受けて、防げる感染症を予防しよう～

予防接種には、自らの病気の発症予防だけでなく、社会全体で流行を防ぐ効果があります。

赤ちゃんから高齢者までさまざまな予防接種がありますが、感染症の種類により時期や回数が規定され、適切な時期に多くの方が受けることで、感染症の流行を抑止しています。皆さんが、効果的に予防接種を受けられるよう、予防接種法等に基づき、対象者には、個別に通知をしています。予防接種による効果と副反応等を理解した上で、体調など主治医と相談し、予防接種を受けましょう。

【予防接種一覧】

定期接種	<p>【子ども】 B型肝炎、小児肺炎球菌、ヒブ、4種混合(破傷風・ジフテリア・百日咳・ポリオ)、BCG、麻疹・風疹、水痘、日本脳炎、2種混合(破傷風・ジフテリア)、 ※HPV(ヒトパピローマウイルス感染症)</p> <p>【高齢者】 季節性インフルエンザ、高齢者肺炎球菌(23価) 【成人】 風しん5期</p>
任意接種	<p>【子ども】 おたふくかぜ、ロタウイルス、季節性インフルエンザ</p> <p>【成人】 水痘(带状疱疹)、肺炎球菌(13価) 【その他】 A型肝炎、狂犬病など</p>

※HPVワクチンは、子宮頸がんの前がん病変に対して高い有効性があり、小学6年生から高校1年生の女兒に対して接種をするものです。現在厚生労働省からの通知により、個別に接種勧奨をしていません。接種を希望される方は、市保健センターまでお問い合わせください。

～麻疹風疹の予防接種を受けましょう～

風疹の追加対策

平成25年に全国的に大規模な風疹の流行があり、その患者の多くは、これまで風疹の定期接種の機会がなく、免疫がない成人男性でした。この流行の最大の問題点は、妊娠初期(20週ごろまで)の妊婦が感染すると風疹ウイルスが胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、赤ちゃんが先天性風疹症候群(CRS)と呼ばれる障害(先天性心疾患・難聴・白内障)を引き起こすリスクがあることです。このため、国は、平成31年から風疹の追加対策を以下のとおり開始しています。

【国の対策】

対象者(昭和37年4月2日生～昭和54年4月1日生の成人男性)に全国统一した無料クーポン券を送付。健診会場や医療機関等で抗体検査を行い、抗体が不十分な方に風しん5期予防接種(麻疹・風疹ワクチン)を実施。検査および接種料金は無料(令和4年3月31日期限)。

【牛久市の対応】

- ◆昨年5月下旬に対象となる成人男性10,733人に無料クーポン券を送付。
- ◆抗体検査実施数…1,514人(実施率14.1%)
※令和元年11月末実績
- ◆麻疹・風疹混合ワクチンの予防接種実施数…337人(接種率…抗体検査実施者の22.3%)

麻疹(はしか)対策

国際的にかつて日本は、麻疹輸出国と言われていましたが、予防接種を2回接種とし、強化した結果、平成27年3月に麻疹が国内で排除状態にあると認定されました。しかし、麻疹の患者数は、海外渡航者からの感染により、ここ数年増加傾向にあります。平成29年は165人、平成30年は282人、令和元年8月までで662人と、国内において散発的に発生。今年開催の東京オリンピックに向けて、感染拡大が懸念されています。

麻疹は非常に感染力が強く、命を落とす重症な合併症を引き起こします。麻疹の抗体を持っていない方が、麻疹患者に接触した場合、ほとんどの人が発症しますので、予防接種を受けることが唯一の予防対策となっています。現状では、乳幼児が予防接種対象となっていますが、大人の風疹対策で、対象となっている方は、麻疹風疹混合ワクチンが接種できます。

